



## 励まし合い認め合える2学期に向けて

校長 敦澤 雅規

39日間の夏休みがあっという間に終わり、2学期を迎えました。1学期の終業式では「自分の成長にとっての大きなチャンスの夏休み」にしてほしいと話をしましたが、どんな夏休みだったのでしょうか。1か月ちょっととはいえ、生徒たちに会えないのは寂しいもので、久しぶりに再会し学校生活をまた一緒に送ることができることを、教職員一同嬉しく感じているところです。2学期は2年生の職場体験や3年生の修学旅行に始まり、全校での音楽学習発表会に収穫祭と、楽しみな行事が目白押しです。2学期も「生徒一人ひとりが目を輝かせ、ワクワクしながら前向きに活動できる学校」を目指して教育活動に取り組んでいきます。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

### 【2学期始業式より】

39日間の夏休みが終わりましたが、「自分の成長にとっての大きなチャンスの夏休み」にすることはできましたか？

さて、今年の夏は何といても2024年パリオリンピックが開催されましたね。テレビなどで見た人も多いと思います。その中でたくさんのドラマが生まれ、今日はその中の一つの話をしたいと思いますが、どの話だと思えますか？…今日みんなに話したいのは体操男子の話です。

体操男子団体戦では、実力者ぞろいだったにも関わらず、決勝の最終種目を前に絶望的な点差でした。でも、奇跡の大逆転で、金メダルを獲得します。でも、それは偶然ではなかったのです。

実は決勝前夜、選手村の一室に全員が集まって涙ながらに胸の内を腹を割って語り合ったそうです。そして、心を一つにして臨んだ決勝。でもミスが続き、普通ならこの状況からの逆転は、とても無理という点差でした。そういう状況の中で、メンバーは声を掛け合います。「絶対諦めるなよ、いけるから！」「俺たちはまだまだいける、大丈夫！」そして何度も何度も円陣を組みます。ラストの橋本選手はケガの影響もあり予選は失敗だらけでしたが、最後の鉄棒で完璧な演技をします。彼はのちにこう言っています。「ずっとみんなに支えられてきた。弱い気持ちは捨てる。みんなのために戦おうと自分に言い聞かせていた。この4人がいなかったら、この演技はできなかったし、諦めなくてよかった」

本当の想いを打ち明けられる信頼関係、お互いにリスペクト（認め合う、尊重する）、一緒に戦ってきた仲間のすべてを受け止める、心を一つにする…

みなさんもこれまでに、仲間となかなかうまくいかなくて困ったり、悩んだり、辛かったりしたことがあったかもしれません。でも、仲間と本音で語り合うこと、信じること、励まし合うこと、認め合うことの大切さを、今回のオリンピックから学べたのではないのでしょうか。2学期は毎日の学校生活はもちろん、音楽学習発表会もあります。体育大会で築きあげたクラスや学年のチームワーク、友情、信頼を、励まし合い声をかけ合いながら、さらに頑丈なものにして、お互いに心の金メダルを掛け合ってほしいと思います。

3年生にとっては、中学校生活も残すところ、あと7か月です。進路決定に向けて、悔いの残らないよう、一日一日を大切に過ごして欲しいと思います。1、2年生にとっては、いよいよ、みなさんが、この立川九中を動かしていく番になります。新しい生徒会役員の人たちが中心となり、九中の良き伝統を引き継ぎ、自分を信じ、仲間を信じ、認め合い励まし合いながら、生徒全員が九中生であることに誇りを持てるような学校を作ってほしいと強く願っています。2学期も楽しく過ごしましょう！

